

はっしあん！ 新青森

青森県立青森西高等学校 × 青森大学



受験生らの「頑張り」応援

激励ポスターや絵馬を掲示



新青森駅

激励ポスターを掲示



新青森駅と青森駅の構内で2月下旬ごろまで、「新春応援企画」が実施されています。受験の合格祈願など、駅利用者の「今年の願い」を記載した絵馬を飾り、社員らの激励メッセージを掲示しています。

新青森駅では在来線改札口に、澤村郁子駅長ら社員9人が、ガッツポーズやパンザイ姿で「けっぱれ！」（津軽弁で「頑張れ」の意味）、「新青森駅は頑張る受験生を応援します」と激励するポスターを張り出しました



(写真左上)。その隣に、「志望校に合格しますように」などと記された駅利用者の絵馬が並んでいます。

青森駅では待合室前の通路に神社と鳥居を描いたポスターが張られ、絵馬には「国家試験に合格できますように」「東大合格」といった言葉に加えて「家族全員健康に暮らせるように」などの願いが書かれています。(写真右)。

「遮光器土偶ねぶた」が人気

新青森駅の新幹線コンコース内で、縄文晩期の遮光器型土偶をかたどつた「土偶ねぶた」が観光客や帰省客の人気を集めています。3年ぶりに行動規制がなかつたこの年末年始、多くの人が注目し、SNSに画像をアップしていました。

遮光器型土偶は青森県つがる市の「亀ヶ岡遺跡」な

どで出土し、「シャコちゃん」の名で親しまれています。土偶ねぶたは2022年、東京駅で開かれた「縄文×青森ミュージアム」のために制作され、役割を終えた後、新青森駅に移設されました。駅構内では、これまでミニ青森ねぶたやミニ弘前ねぶたが展示されていましたが、土偶ねぶたの登場で青森県の文化や歴史がさらに身近になりました。

青森県立郷土館巡回展「あおもり旅ものがたり」

交通・観光の今昔を紹介

青森県立美術館で1月29日(日)まで、青森県立郷土館の巡回展「あおもり旅ものがたり」が開かれています。縄文時代から現代に至るさまざまな時代の「旅」をめぐり、バリエーション豊かな収蔵物約300点を展示しています。

巡回展は2022年の「鉄道開業150年」にちなんで企画され、むつ市と三沢市の開催を経て、青森県立美術館が最後の開催地です。

最も古い時代では、縄文時代に北海道から青森県へ運ばれてきた黒曜石の石器と緑色岩の石斧、同じく新潟県糸魚川産のヒスイの丸玉、弥生時代の同県佐渡産の碧玉で作られた管玉などが紹介されています。

時代が飛んで、昭和初期の鉄道路線図や青森駅発着の青函連絡船・列車の時刻表が並び、「考現学」で知られる今和次郎の弟で銅版画家の純三が描いた「列車風景」のスケッチなどと合わせて、当時の旅の空気感を伝えてくれます。

また、1891(明治24)年の東北本線全線開通に合



わせて制作された「日本鉄道陸奥地方画譜」は、「青森市街大雪之図」など沿線の雪景色を描いており、当時の風景や雪国の暮らしの一端を知ることができます。

目を引くのは大正から昭和にかけて活躍した吉田初三郎が描いた八戸市の鳥瞰図の原画です。吉田は十和田湖、青森市、七戸町など青森県関係の多くの鳥瞰図を残しています。

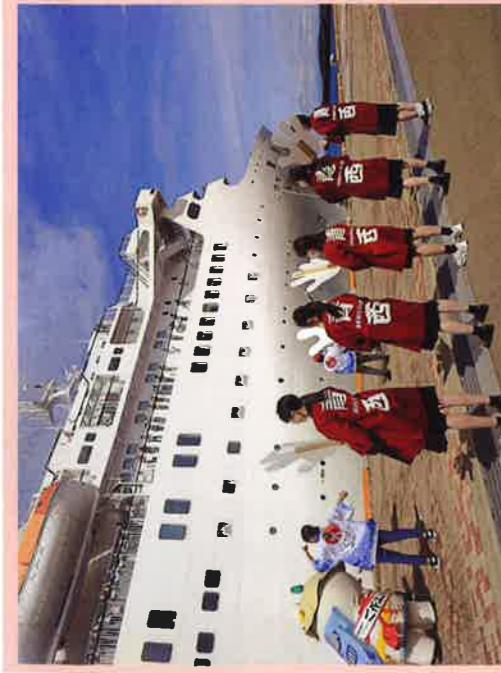
©2023 MOTOOKUSHIBIKI

このほか、リンゴや貝をあしらった旅の土産品、駅弁・お菓子のパッケージ、「青函連絡船のある風景」の写真群、セピア色の観光地の絵はがきなど、意外に目に見える機会がない品々が、旅情と郷愁を誘います。

青森県立郷土館の滝本敦主任学芸主査は「コロナ禍で外出や移動が不自由な期間が続いているますが、古くまで開かれています。

<ご自由にお持ち帰り下さい>

ボスター等は許諾を得て使用しています。



3年ぶり活動を本格再開

新青森駅を拠点の一つとしている青森県立青森西高校「青西おもてなし隊」は、2022年、コロナ禍に負けず、3年ぶりに本格的な活動を再開しました。生徒たちは、2023年のスタートに、気持ちを新たにしています。青西おもてなし隊は東北新幹線・新青森駅開業に合わせて2010年の夏、発足しました。継続的な取り組みが評価されて、2019年度には青森県「おもてなしアワード」の県知事賞を受賞しています。



2022年8月、3年ぶりにクルーズ船の出迎えに出動



コロナ禍の行方はまだ予断を許しませんが、新年の開催についてます（写真右）。

生徒たちの活躍が期待されます。

SNSなど情報発信に「さんまる」が活躍中

「北海道・東北の縄文遺跡群」の中心的遺跡・三内丸山遺跡はTwitter、Instagram、FacebookなどのSNSでも活発に情報を発信しています。その「立役者」と言えるのが、マスコットキャラクターの「さんまる」です。

「さんまる」は三内丸山遺跡が2012年11月、特別史跡に決まったことを記念して制作されました。アイデアを一般から公募し、さらに三内丸山遺跡に詳しいデザイナーが現在の姿に仕上げました。遺跡から出土した縄文時代前期の「板状土偶」をかたどつていて、「4500年前の1月1日が誕生日」という設定です。

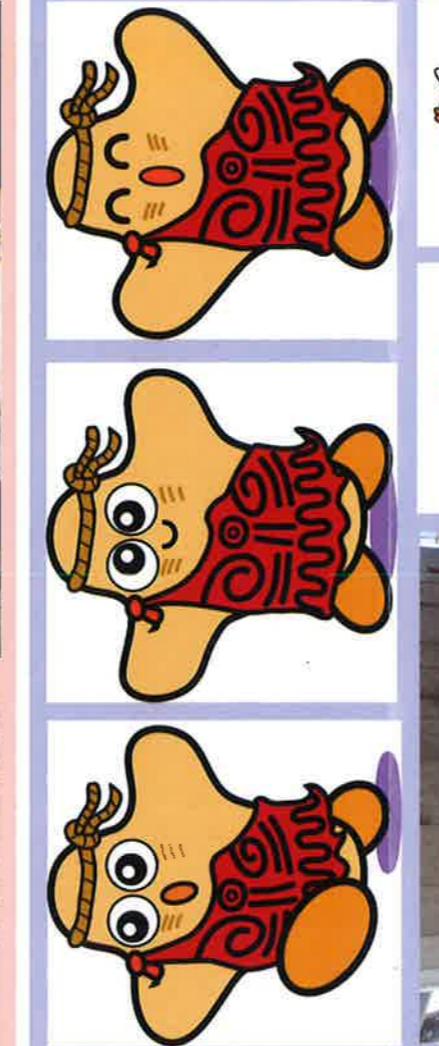
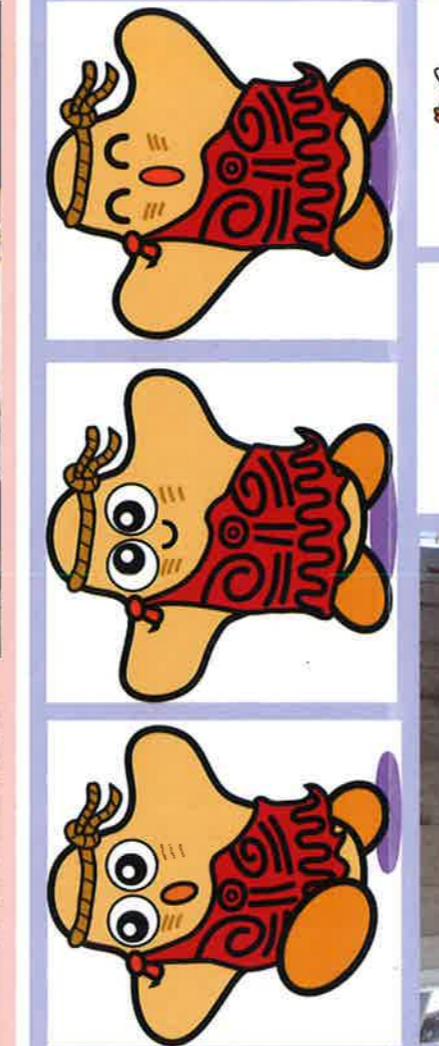
イラストは歩いている格好の「基本形」の

ほか笑顔、春夏秋冬の衣装など17種類があります（左下の2次元コード参照）。

さらに、2021年の「北海道・東北の縄文遺跡群」世界遺産登録を記念して、「六本柱」や青森県特産のリンクゴ、青森ねぶた祭りの「跳ね人」花笠などをあしらった「世界遺産バージョン」2点が設定されました（イラスト右下の2枚）。

SNSではイラストに加え、縋るみが遺跡の様子

やガイドブックの紹介などに活躍しています。このほ



新青森駅 ⇒ 三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」(東口) 約20分・300円、タクシー(南口) 約10分・1,000円前後、徒歩約30分

⇒ 青森県立美術館：「ねぶたん号」(東口) 約11分・300円、タクシー(南口) 約10分・1,300円前後、徒歩約40分

Facebookページ **Instagramアカウント**
＜ネット情報＞ FacebookページとInstagramアカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ

ください。また、PDF版を青森大学社会連携センターのFacebookページに掲載しています。いずれも、右側のQRコードからご覧いただけます。
☆このニュースレターは、青森大学社会学部・柳引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。